

2023年度学生生活アンケート結果——方法、回答者数など

■調査の目的・方法■

本学では、学生の考えや行動を把握し教育環境の質を向上させ、学生の満足度を高めることを目的として、学生を対象とした「学生生活アンケート」を実施しています。

本調査はWEBアンケートシステムを用いて行い、毎年、半数以上の学生から回答を得ています。2023年度調査の回答率は54.40%で、2022年度に比べ3.04ポイント増となりました(表1,【参考】)。

- (1) 調査の対象 2023年度本学在籍学生
- (2) 調査の方法 WEBアンケートシステムを利用し学生個々が回答(無記名)
- (3) 実施期間 2023年12月11日(月)～2023年12月24日(日)
- (4) 回答者の基本情報

表1 2023年度調査の基本情報

2023年度	全体	国際英語	史	心理	日本文化	幼児教育	児童教育	生活文化	観光文化	目白C	我孫子C
学生数	818人	76人	132人	141人	80人	119人	48人	112人	110人	186人	632人
回答者数	445人	47人	82人	68人	44人	89人	25人	49人	41人	88人	357人
回答率	54.40%	61.84%	62.12%	48.23%	55.00%	74.79%	52.08%	43.75%	37.27%	47.31%	56.49%

【参考】2020～2022年度の基本情報

2022年度	全体	国際英語	史	心理	日本文化	幼児教育	児童教育	生活文化	観光文化	目白C	我孫子C
学生数	991人	108人	150人	156人	106人	149人	67人	116人	139人	247人	744人
回答者数	509人	40人	94人	70人	56人	115人	38人	53人	43人	83人	426人
回答率	51.36%	37.04%	62.67%	44.87%	52.83%	77.18%	56.72%	45.69%	30.94%	33.60%	57.26%

2021年度	全体	国際英語	史	心理	日本文化	幼児教育	児童教育	生活文化	観光文化	目白C	我孫子C
学生数	1205人	140人	169人	178人	107人	216人	80人	134人	181人	321人	884人
回答者数	735人	67人	108人	108人	85人	123人	58人	93人	93人	160人	575人
回答率	61.00%	47.86%	63.91%	60.67%	79.44%	56.94%	72.50%	69.40%	51.38%	49.84%	65.05%

2020年度	全体	国際英語	史	心理	日本文化	幼児教育	児童教育	生活文化	観光文化	目白C	我孫子C
学生数	1123人	136人	160人	175人	111人	174人	73人	128人	166人	302人	821人
回答者数	567人	60人	92人	88人	73人	81人	47人	62人	64人	124人	443人
回答率	50.49%	44.12%	57.50%	50.29%	65.77%	46.55%	64.38%	48.44%	38.55%	41.06%	53.96%

2023年度学生生活アンケート結果——満足度について

■調査と分析方法■

「満足度」や「大学への帰属意識」に係る設問は12問あります（下図参照）。

各設問に対して、「あてはまらない」「ややあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」の4択で回答してもらいました。

検証にあたっては回答をポイント化し（「あてはまらない」=1, 「ややあてはまらない」=2, 「ややあてはまる」=3, 「あてはまる」=4）, その平均を過去4年の値と比較しました。

2023年度は調査対象者数818名のうち回答が得られた445名（回答率54.40%）の結果を分析しました。

■分析■

2023年度の卒業生の在学中の満足度の推移（1年生時（青）, 2年生時（赤）, 3年生時（緑）, 4年生時（紫））をみると、概ね年次が進むにつれて満足度が高くなる傾向が見受けられます（図1）。一方で、2年生時に大学生活への満足度（設問8）および学科への満足度（設問9）が低下し、本学への否定的感情（設問13）が上昇する様子もみられ、2年生との関わり方の重要性を示唆しています。

回答者全体の傾向を過去4年の推移でも、学生の満足度は年々、上昇している様子がみられます（図2）。女子大学についての設問（設問15~17）をみても、年々、女子大学への肯定的な見方が増加している様子がうかがえます。

現在、在籍している学年別の傾向に大きな違いは見受けられないものの、他学年と比べれば3年生のポイントがやや低く、図1の結果も踏まれば、2年生および3年生への関わり方によっては満足度がさらに高くなる可能性もあります。

図1 満足度（卒業生、在学中の推移）



図2 満足度の過去4年の推移（2020～2023年度、回答者全体）

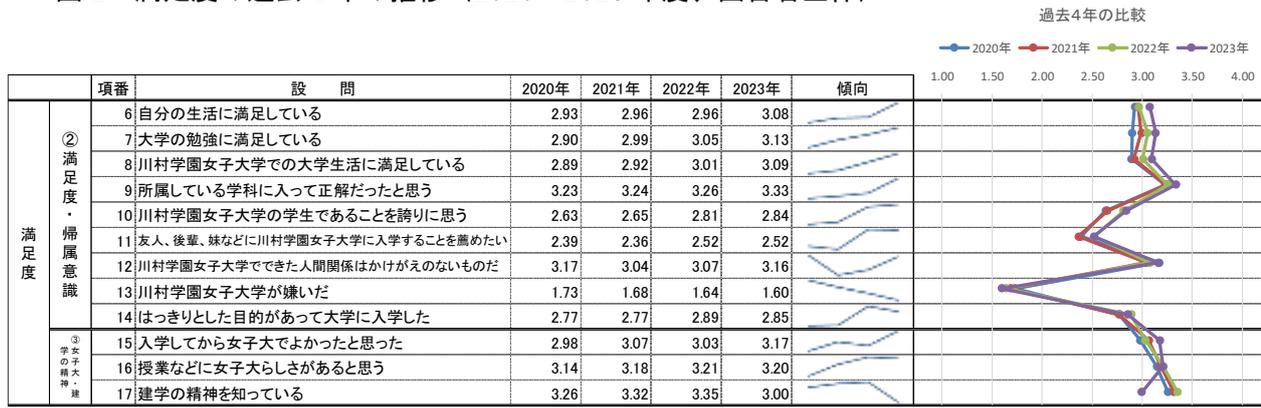


図3 満足度の比較（学年別）



2023年度学生生活アンケート結果——学生の意欲について

■調査と分析方法■

学生の意欲や大学生活，課外活動に係る設問は9問あります（下図参照）。

各設問に対して，「あてはまらない」「ややあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」の4択で回答してもらいました。

検証にあたっては回答をポイント化し（「あてはまらない」=1，「ややあてはまらない」=2，「ややあてはまる」=3，「あてはまる」=4），その平均を過去4年の値と比較しました。2023年度は調査対象者数818名のうち回答が得られた445名（回答率54.40%）の結果を分析しました。

■分析■

学生の意欲を学年別にみると，いずれの学年でも資格や将来，卒業後の進路などキャリアに対するポイントが3.00を上回るなど意識が高いことがわかります（図4）。一方で，設問20や設問21，25，26の結果にみられるように学内外の自主的な活動に関するポイントは2.00前後とやや低い様子もわかります。

過去4年の推移をみると，全体的に2023年度のポイントがそれ以前に比べて下がっています。とくに留学への意欲（設問18），部活動・サークル活動への参加（設問26）の値の低下が目立っています（図5）。

これをキャンパス別にみると，キャリア意識は我孫子キャンパス・目白キャンパスいずれも高いものの，総じて目白キャンパスの方が高い値を示しており，とくに留学への意欲（設問18）と学内イベントへの意欲（設問21）で目白キャンパスの学生の方が意欲が高い様子が見えます（図6）。

図4 学生の意欲（学年別、回答者全体）



図5 学生の意欲の過去4年の推移（2020～2023年度、回答者全体）



図6 学生の意欲（キャンパス別、回答者全体）



2023年度学生生活アンケート結果——学修成果・成長実感について

■調査と分析方法■

学修成果・成長実感に係る設問は20問あります（下図参照）。

各設問に対して、「あてはまらない」「ややあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」の4択で回答してもらいました。

検証にあたっては回答をポイント化し（「あてはまらない」=1, 「ややあてはまらない」=2, 「ややあてはまる」=3, 「あてはまる」=4）, その平均を過去4年の値と比較しました。

2023年度は調査対象者数818名のうち回答が得られた445名（回答率54.40%）の結果を分析しました。

■分析■

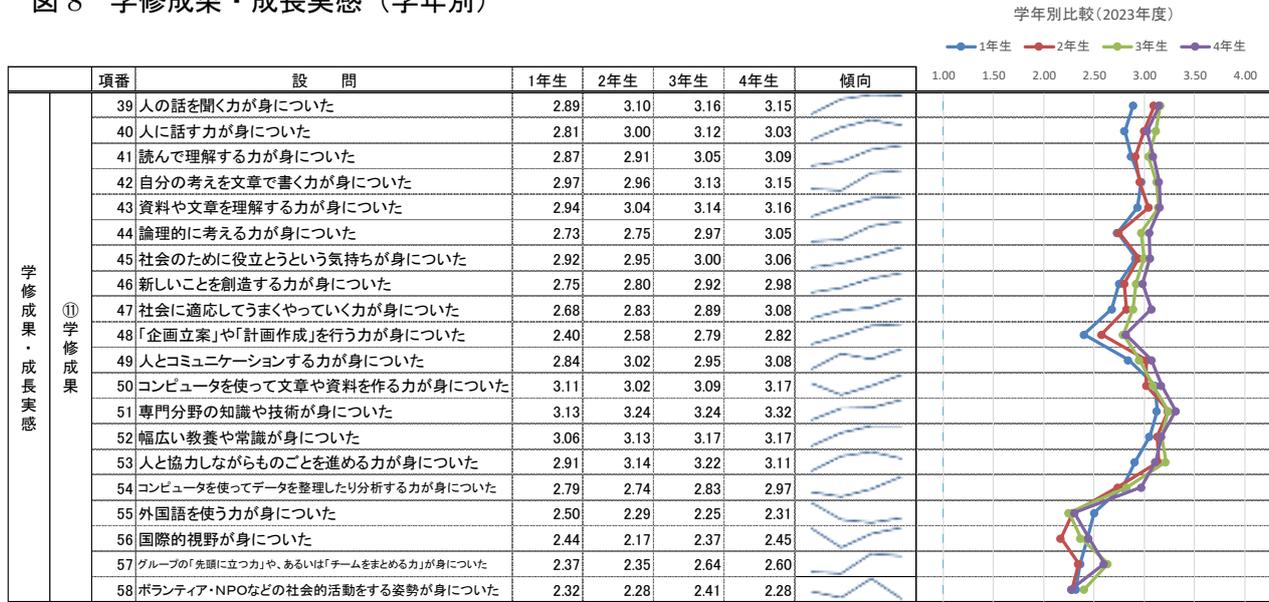
2023年度卒業生の在学中の推移（1年生時（青）, 2年生時（赤）, 3年生時（緑）, 4年生時（紫））をみると、概ね年次が進むにつれて値が高くなる傾向がみられます（図7）。とりわけ、コミュニケーション能力やパソコンの技能、専門知識や教養（設問49~52）のポイントが3.00以上と成長実感が高い様子がうかがえます。

学年別にみても、学年が高いほど成長を感じている学生が多いことがわかります（図8）。一方、コミュニケーション能力（設問49）や外国語能力、国際的視野、チーム能力、社会的活動への姿勢（設問55~58）をめぐる実感は比較的、乏しい様子もうかがえます。

図7 学修成果・成長実感（卒業生、在学中の推移）



図 8 学修成果・成長実感（学年別）



2023年度学生生活アンケート結果——学修時間について

■調査と分析方法■

学修時間については2つの設問で調査しています。

第1は、「授業に係る学修時間」の設問（設問37. 1週間にどれくらいの時間を授業で出されたレポートや課題，授業の予習・復習の為に使っていますか）です。

第2は、「自主的な勉強に充てる時間」に関する設問（設問38. 1週間にどれくらいの時間，授業に直接関係のない自主的な勉強の為に使っていますか）です。

2023年度は調査対象者数818名のうち回答が得られた445名（回答率54.40%）の結果を分析しました。

■分析■

「授業に係る学修時間」についての今回の結果は「5時間未満」が71.0%，「5時間以上」が28.8%で，最近4年において5時間未満の割合が最も高く，5時間以上の割合が最も低くなりました。

一方，「自主的な勉強に充てる時間」については「5時間未満」が84.7%，「5時間以上」が14.6%で，最近4年においては5時間未満の割合が最も低く，5時間以上の割合が最も高くなりました。

授業に係る学修より自主的な勉強により多くの時間を割いている様子がうかがえます。資格に結びつく勉強や将来への意識の高さもその背景にあるものと考えられますが，授業に係る学修時間とのバランスへの対策の必要性が示唆されます。

表1 授業に係る学修時間の推移（2020～2023年度、回答者全体）

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
5時間未満	68.8%	63.0%	41.1%	71.0%
5時間以上	31.1%	37.0%	46.7%	28.8%

※設問37. 「1週間にどれくらいの時間を授業で出されたレポートや課題，授業の予習・復習の為に使っていますか」への回答。無回答除く。

表2 自主的な勉強に充てる時間の推移（2020～2023年度、回答者全体）

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
5時間未満	91.2%	88.5%	92.2%	84.7%
5時間以上	8.8%	11.5%	7.8%	14.6%

※設問38. 「1週間にどれくらいの時間，授業に直接関係のない自主的な勉強の為に使っていますか」への回答。無回答除く。